

平成30年度第1回石川県環境審議会
自然共生部会 議事録

日 時：平成30年10月3日（水）10：00～10：45

場 所：石川県庁行政庁舎 11階 1109会議室

出 席：

（委員）

丸山部会長、加藤委員、門村委員、神谷委員、中村(浩)委員、
結城委員、吉野委員、香坂専門委員、辻森専門委員、
中村(正)専門委員、林専門委員、
村山専門委員（12名／15名）

（事務局）

飴谷生活環境部長 他8名

傍聴者：なし

1. 開 会

- 事務局から、委員総数15名のうち12名の出席があり、定足数に達していることを報告。

2. 挨拶（飴谷生活環境部長）

3. 議 事

（1）部会長職務代理者の指名について

- 丸山部会長において「ふるさと石川の環境を守り育てる条例」の規定により中村(浩)委員を部会長職務代理者に指名。

- 中村(浩)委員から承諾する旨発言。

（丸山部会長）

ご承諾いただけましたので、職務代理者は中村(浩)委員とさせていただきます。

（2）【議案】対象狩猟鳥獣の捕獲等の禁止について（バン・クロガモ）

(丸山部会長)

議案の審議に入ります前に、本日の当部会の議決は、ふるさと環境条例及び同運営要領によりまして、環境審議会の議決であり、そのまま知事への答申へととなりますので、念のため申し上げておきます。

本日、ご審議いただきます議案は、お手元の資料の「諮問事項」にありますとおり、知事から諮問のございました「対象狩猟鳥獣の捕獲等の禁止について（バン・クロガモ）」の1件でございます。

議案につきまして、事務局から説明した後、ご審議いただきたいと思えます。

それでは、事務局から議案「対象狩猟鳥獣の捕獲等の禁止について（バン・クロガモ）」を説明願います。

(事務局)

(議案の説明)

(丸山部会長)

ただいま事務局から説明のありました議案について、ご審議願います。質問やご意見をお出しいただければありがたいと思えます。

(結城委員)

資料2ページ目の県内の生息状況において「近年は高松海岸以外ではあまり見られない」と記載がありますが、それ以前は他の地域でも見られたのでしょうか。

(丸山部会長)

ただいまの意見について、事務局いかがでしょうか。

(事務局)

それ以前は、海岸付近で見られていたということですが、現在、県独自で調査しているところは4ページの下段に記載があるように、高松海岸と美川海岸の県内2箇所になります。飛来している数は、高松海岸の方が美川海岸より多いという状況になっております。

(香坂専門委員)

県独自のクロガモの結果というのが、数字が多いですが、なぜでしょうか。詳細に行われるからポイントが多かったのでしょうか。

(事務局)

クロガモの調査ポイントにつきましては、先ほどご説明したとおり高松海岸と美川海岸の2箇所で行っているだけとなっております。それ以外にガンカモ科鳥類生息調査について、県内13箇所の湖沼、河川で行っておりますが、湖沼や河川には、クロガモがいませんので、県独自に近年多く飛来している高松海岸と美川海岸を設定して調査をさせていただいております。

(中村(正)専門委員)

クロガモが増えているのではないかという話がありましたので、状況をお話ししたいと思います。調査地が日本海側の冬の海になりますので、波があつたりして非常に調べにくいところです。ここ2年多くなっているように見えますが、波が穏やかなときに調査したので、数が大きく見えると考えられます。2013年に144羽とありますが、このときは波があつたのですが、このような結果となりました。2012年や2014年は極端に少ないですが、野鳥ですので、飛来する数に大小が出てくるところがあります。この少ない年は調べる以前から今年はクロガモが少ないというのがはじめから分かっておりまして、調査結果というのがこのことを裏付けております。当然、これ以降も数が少なくなる年も考えられます。

ガンカモ科鳥類生息調査で七尾西湾を調べておりますが、そこにクロガモがほとんどいないことから、高松海岸近辺あたりにしか生息していないということを裏付けていると思われれます。ガンカモ科鳥類に関しては、石川県全体でみれば調査区域以外にもある程度生息していると考えられますが、クロガモにおいては、ポイントが絞られるという状況だと思えます。

(丸山部会長)

実際に調査に当たっていらっしゃるのでしょうか。

(中村(正)専門委員)

ほとんど私個人が行っております。

(事務局)

県から依頼しております。

(丸山部会長)

他に、ご質問はございませんか。

期間延長したいという議案ですので、もしございませんようでしたら、

今ご審議いただいた議案につきましては、更新させていただければと思いますが、よろしいでしょうか。

＜特に異議等の発言なし＞

それでは、当部会に諮問のありました議案については、ご了解いただきましたということですが、折角の機会ですので委員の方で何かございましたら何なりとご発言いただければと思います。

（中村(正)専門委員）

参考になりますけれども、バンの状況についてお話ししておきたいと思います。資料にも書かれておりますけれども、バンは夏鳥として日本に飛来、営巣するというのが基本的なパターンですが、若干数冬にも残ります。ガンカモ科鳥類生息調査は冬にやっておりますのでほんの少しカウントされております。バンは普通の鳥だと思っていたので、野鳥の会としても数字的、客観的なデータというのは持っていませんけれども、主観的な形でよく見ているのは、夏の蓮田になります。以前は夏の夕方5時くらい蓮田の中にいっぱい見れたのですが、近年は夏、秋になっても蓮田で見れません。農家の方に聞いたところ、以前は蓮田の畦でバンの卵をいくらでも見かけたが、最近はそんなものもないねとおっしゃっていた。そういったところからもバンはかなり減っていると、これは県内のバードウォッチャーらの意見でも同じになっております。

（結城委員）

4ページ目の表で、上の調査は毎年1月に実施ですよね。下のバンとクロガモはいつ頃調査になるのでしょうか。

（事務局）

バンとクロガモの調査につきましても、ガンカモ調査と同じ時期にお願いしておりますので、冬になります。

（結城委員）

夏に飛来するバンについては、調査時期はもっと適切なものがあるのではないのでしょうか。

（事務局）

狩猟期間中の狩猟鳥獣としての捕獲を禁止するかどうかというところ

で、冬に越冬する個体が少ないものを撃つとそれだけ影響が出てきますので、少ないときの狩猟期間の捕獲を禁止しようということでこの調査を利用して捕獲禁止をさせていただいているという状況なんですけれども、多いのは夏です。夏は狩猟期間ではありません。基本的に狩猟以外の捕獲というのは許可がないとできないようになっておりますので、その点は問題ないのではと思っております。

(香坂専門委員)

話が離れてしまうかもしれないのですが、能登島にサルが出ているという話をちらほら聞きました。シカの方はまだ繁殖はしてないんですよね。雌が入ってきているとかそのあたりを教えてくださいませんか。

もう一つ話題提供で、最近韓国の世界農業遺産にお邪魔したとき、チェジュ島の北の島なのですが、青い山の島と書くところで、農業遺産とスローフードを両方とって、能登と近いなと思ったのが、農業遺産の方は棚田の公式を守り、石の積み方を守るというのに特化していて、観光の方はスローフードでやるという認定の切り分けをきれいにやっていて、そこが戦略的かどうかというのはこの部会の話ではないのですが、能登とは違う戦略で観光と遺産の自然保護の方を分けているなというイメージがあったので。

(事務局)

まず、サルの方ですけれども、基本的に白山麓、金沢周辺にかけてが主な生息場所となっております。近年は、金沢の市街地に出てきたり、小松の方の山から出てきたりという形で生息範囲が拡大しておりますが、委員がおっしゃられたように能登島や奥能登でも報告が上がっております。ただ、ハナレザルということですので、市町で悪さをしていれば追い払いをしていると聞いております。

シカですが、平成24年から県の方でモニタリング調査を実施しております。平成24年の調査では、中間値で生息数が900頭でしたが、昨年の調査結果では、中間値1900頭ということで2倍以上に増加しております。モニタリング調査の中で、自動撮影カメラも設置しておりますが、オス・メスの比率も調査しておりますが、メスは平成26年が3%程だったのが、10%を越えてきており、メスの比率が多くなってきていることから、県内に既に進入した個体については、繁殖もしていると考えております。

今年度補正予算で環境省の交付金を利用したシカの捕獲事業にて県が捕獲に乗り出そうとしております。先ほど話した平成24年からの調査で

加賀地域のシカの高密度な地域も特定されてきたので、そこで重点的に個体数を抑制していこうということで、捕獲を試みたいと考えております。

捕獲方法としては、専門家の方の意見を伺ってからと考えておりますが、銃猟による捕獲とICTを活用した大型の捕獲檻で集団捕獲を新たな試みとしてやっていきたいと考えております。

(中村(浩)委員)

シカがどんどん増えているという話で、いろんな新しい捕獲方法が出てきていますが、捕っても捕っても増える力がすごく大きいと思います。どんどん増えていく状況は何年も前から分かっていたことですよ。シカだけでなくイノシシもいるわけですよ。シカの話だけを審議していますが、イノシシも同じように増えている。マネジメント、管理するときには、両方考えながらしていかないと。サルもいるわけですから。

狩猟する方、市町におられる方などを指名して組織されて、管理に携わる人はいろんな種類の動物を同時に捕ったり防除するというのをやっておられると思います。シカの会議のときは、シカ中心に議論したらいいと思いますが、同時にその場所にイノシシがたくさんいるとしましたら特定の何人かの方があたっているとありますが、その方が全体としていろんな動物に対応しなければならない。これがどんな状況かということも含めて明日も言おうと思っています。

ぜひ何種類かの今問題となっている害獣を簡単なデータでもまとめて説明した方がいいのではないかと。

(丸山部会長)

ありがとうございます。そういうご意見でございますので、県の方で考えていただければ。

イノシシについては、何年か前もこれ以上増えない頭数に制限するというので具体的にモニターして計画どおり減っているかどうかをデータ化してやっていただければ。

イノシシの頭数調査はしてらっしゃるのですか。

(事務局)

イノシシについては、毎年、個体数の推定をしております。今年度も昨年度の捕獲状況ですとか、昨年度は雪が多く降りましたので気象条件もデータとして活用しながら個体数を年度末頃に出したいと思っております。

(丸山部会長)

何年か前、これ以上増えないようにするには、何頭くらい年間でとったらいと県のルールを決めていただいたというところですが、おっしゃられたようにモニターしておかないと分からないですのでよろしく願いします。

その他ございませんでしょうか。特にないようですので、これで会議は終了させていただければと思います。事務局にお返しいたします。

4. 閉会 (事務局)

丸山部会長はじめ、委員の皆様におかれましては、本日の議事の円滑な進行にご協力いただきましてありがとうございました。それでは、以上を持ちまして、本日の環境審議会自然共生部会を閉会いたします。委員の皆様にはお忙しい中、ご出席又ご審議いただきまして誠にありがとうございました。

5. 審議結果

○ 石川県知事から諮問のあった案件については、いずれも適当と認め、その旨知事に答申することに決した。